ご活用ください！ 寄居町修学資金制度

町では、町内在住の高校生で、修学の意欲を有しながら経済的な理由により高等学校での修学が困難な方を対象に、修学に要する資金を補助します。

対（いずれにも該当する方）
①生年月日が平成14年4月2日以降
②平成30年4月1日以降新たに高等学校、高等専門学校、中等教育学校の後期課程および特別支援学校の高等部に入学し在学中で、在学期間が3年以内

■修学生の条件（いずれにも該当する方）
①町内に引き続き6カ月以上住んでいる
②正規の修業年限の勉学に耐えられる性行の善良な者で、経済的な理由により学資の支出が困難な世帯の高校生

対象となる世帯の例
○生活保護受給世帯 ○『生活保護法』による保護が停止または廃止となった世帯 ○町民税が非課税の世帯 ○『児童扶養手当法』による児童扶養手当を受給している世帯
※このほかにも援助を受けられる場合があります。詳細はお問い合わせください。

修学金の額／月額5000円

申次の書類を6月25日㈭までに、教育総務課へ提出してください。
①修学資金給与申請書
②在学等証明書（町で定めた様式のもの）
③令和2年度（平成31年・令和元年所得分）市町村民税課税証明書等（世帯員で所得税・住民税の申告義務のある方全員のもの）、または経済的な理由で修学困難なことが証明できる公的文書の写し

他認定後は、7月、11月、2月の各月末までに、当該月に発行された在学証明書の提出が必要です。
※提出がない場合は認定取消となります。

問教育総務課（☎内線512）

第3子以降の学校給食費を補助しています！

町では、多子世帯の経済的負担を軽減することにより子育て支援を推進するため、学校給食費を補助しています。

対3人以上の子どもを扶養し、そのうち出生の早い順から数えて第3番目以降の児童・生徒の学校給食費を負担している保護者。なお、保護者と扶養されている子どもは、ともに寄居町に住所を有し生計を一にしている必要があります。
※次のいずれかに該当する場合は対象になりません。
①学校給食費に未納がある
②国または地方公共団体の負担において学校給食費に係る扶助を受けている
③生活実態が認められない

補助金限度額（年額）
▼小学校1年生　4万3520円
▼小学校2年～6年生　4万4000円
▼中学校1年～2年生　5万5000円
▼中学校3年生　5万2620円

申請手続等
①町立小・中学校に就学している児童・生徒
▼4月上旬に各学校から申請書が配布されますので、該当する児童・生徒が就学する学校へ提出してください。
②町外の私立小・中学校等に就学している児童・生徒
▼申請書を学校給食センターへ提出してください。申請書は、学校給食センターと教育総務課に備え付けてあるほか、町公式ホームページからも取得できます。
※昨年度対象となった方も、年度ごとに申請する必要があります。

問町立学校給食センター（☎581・2139）

住宅改修資金補助制度をご活用ください！

町では、地域経済の活性化を図るため、町内の住宅改修施工業者と契約し居住用住宅の改修を行う際、その費用の一部を補助します。

受付開始／4月13日㈪から
※予算額に達した時点で受付終了となります。

対過去に同制度を利用していない方で、次の①～④の要件をすべて満たす方
①町内在住で、町の住民基本台帳に登録されている方 ②対象となる住宅を所有し、かつ居住している方 ③町税等の滞納がない方 ④対象となる改修工事について、ほかの補助制度を受けていない方

対象となる住宅／次の①～③のいずれかに該当する建築物
①個人住宅（自己の居住用の建築物）
②併用住宅（個人住宅と店舗や事務所等が同一の建築物になっている場合の居住用部分のみ）③集合住宅（アパート等の所有者の自己居住部分のみ）

対象工事／町内に事業所がある施工業者が行う、工事費が20万円以上（消費税および地方消費税を除く）で、令和3年2月末日までに完了する住宅改修工事。なお、交付決定後30日以内に着工できる必要があります。
※新築や建て替え工事等は対象外

補助金額／改修工事に要した費用（税抜）のうち、10％に相当する金額（千円未満は切り捨て）とし、20万円を上限

申必要書類を持参し、商工観光課へ申請してください。詳細はお問い合わせください。

問商工観光課（☎内線452）

勤労者住宅資金貸付制度をご活用ください！

町では、勤労者の住宅取得を支援しています。

対次の①～⑤の要件をすべて満たす方
①町内に居住している、または居住しようとする方 ②同一事業所に2年以上引き続き勤務している方 ③20歳以上55歳以下の方 ④返済しながら生活に支障のない方 ⑤町税等の滞納がない方

資金の用途／申込者が町内に居住するための住宅の新築・増改築・購入（中古住宅・マンションを含む）、借地買い取りをするための資金に限ります。

申利用者本人またはご家族が、商工観光課へ申請してください。その後、資格決定について通知しますので、通知後3カ月以内にご自身で金融機関（中央労働金庫深谷支店）で借り入れ手続きをしてください。

貸付の条件
貸付金額／1000万円以内（無担保は500万円以内）
貸付利率／変動金利（無担保は固定）
※金利情勢により変更になる場合があります。
貸付期間／25年以内（無担保は10年以内）
償還方法／元利均等月賦返済（ボーナス併用返済、繰上償還可）
担保／資金の用途となった対象物件に中央労働金庫の第1位順位の抵当権を設定します。
保証／（一社）日本労働者信用基金協会の保証が必要となり、金利とは別に保証料が必要となります。
手数料／取扱金融機関所定の手数料が必要です。

問商工観光課（☎内線451）

『寄居町の民話』とはなんぞや。

そもそも民話とは何でしょう？　日本語大辞典には『民話とは民衆(一般の人)の中に生まれ、かつ民衆に伝承されてきた文芸としての民間説話。昔話・伝説など。』とあります。明治以降、民俗学が起こり、民話の収集が行われて以来、大手出版社から民話全集などが数多く発行され、広まっていったようです。今月号から、町に伝わる民話がこれからも広く長く伝わっていくよう「よりい民話研究会」の皆さんにご協力をいただき、各地区の民話をご紹介していきます。

おわんを貸してくれる淵

昔、鉢形に一軒の宿屋がありました。全国各地からお客さんがくるのでたいそう繁盛していました。

ある日のこと、一人のお侍がやってきていいました。

「近々、鉢形城に登城するお殿様のご一行が、はるばる遠い地方からおいでになることになった。そのときはこの宿でおやすみになるから、お迎えする準備をしておくように。」

これを聞いた宿屋の主人は、なんとか心づくしのおもてなしをしたいとおもいました。

いろいろとかんがえたすえ、地元でとれた山菜や魚をつかったおいしい料理をだすことにしました。それにはりっぱなお膳やおわんなどの食器がたくさん必要です。そこで主人は溜手橋の下にある淵にお願いしてみることにしました。さっそく手紙を書いて、

「どうか食器を貸してください。」

とおねがいしながら溜手橋の上からながしました。

つぎの日の朝早く主人が溜手橋にいってみると、ちょうどおねがいしただけのお膳やおわんが水面にうかんでいるではありませんか。朱塗りのお膳、美しいいろどりのおわんなど見たことのないような立派な食器でした。主人はだいじにそれをもってかえり、食事のしたくをさせました。お殿様はおいしい料理にしたつづみをうち、立派な食器にも満足しました。主人は、

「これも淵の神様のおかげだ。」

とありがたく思いました。

つぎの日、主人はきれいにあらった食器をもって、淵に返しにいきました。主人は何度も何度も頭をさげてお礼をいいながら淵に食器をうかべました。すると食器はすっと淵のなかにすいこまれていきました。

それからというものこの宿屋では、お殿様がおやすみになるとき、いつもこの淵におねがいして、食器を借りるようになったということです。



出典「こどものための寄居町民話集」